厚岸湖・別寒辺牛湿原におけるドロクダムシ相と生態的特性の解明

～厚岸湖・別寒辺牛湿原学術研究奨励金の研究事例を紹介します～

●問い合わせ／水鳥観察館☎52－5988

厚岸湖・別寒辺牛湿原学術研究奨励補助金制度とは？

厚岸町では厚岸湖、別寒辺牛湿原、ほか町内の自然環境を次世代へ引き継いでいくため、専門分野の学生や研究者に支援をしています。
このページでは、制度を活用した研究の一部をご紹介します。

ドロクダムシとは？

ドロクダムシは甲殻類に含まれるヨコエビの仲間（端脚目：たんきゃくもく）の一種で、水中の泥や堆積物などを利用して、自ら分泌した糸を縫い合わせるようにして管状の巣を作り、その中で生活しています。ドロクダムシは水鳥やカレイなどの稚魚の餌となるだけでなく、巣が他の水生生物のすみかにもなるなど、生態系を支える生物として非常に重要です。

厚岸町内ではドロクダムシの記録はあったものの、どのような種がどのような環境に生息しているのかについては明らかになっていませんでした。そこで、広島大学の向田氏は町内で過去に採集されたドロクダムシの標本を調べたり、別寒辺牛湿原や厚岸湖、厚岸湾で実際にドロクダムシを採集して、町内にいるドロクダムシについて調査しました。

調査結果

標本からは大黒島沖水深50mの岩場で採集されたトゲドロクダムシが確認されました。その他、モノドロクダムシ属の複数種の標本が確認できましたが、破損していて種までは特定できませんでした。

厚岸湾での調査では沿岸の磯からウエノドロクダムシが採集されたのみで、沖合の調査ではドロクダムシの仲間を採集できませんでした。

厚岸湖では湖中央部のアマモ場からサラドロクダムシ属の一種が採集されました。この種はまだ正式な学名がついていませんが、同じと思われる種が本州の日本海側地域の藻場からも見つかっており、藻場が発達した環境を好むと考えられます。湖内の砂泥底からはアリアケドロクダムシとトンガリドロクダムシが採集されました。アリアケドロクダムシはチカラコタン付近で、トンガリドロクダムシは別寒辺牛川河口周辺で目立って採集されたことから、塩分濃度の違いで生息場所を住み分けている可能性があります。

一方で別寒辺牛川ではドロクダムシ類は見つかりませんでした。欧米では別寒辺牛川下流域のような塩分濃度が低い環境からもドロクダムシ類が見つかっていますが、厚岸ではドロクダムシ以外のヨコエビの仲間がこのような場所に生息し、生態系を支えていると考えられます。



△調査で見つかったドロクダムシ（写真は報告書より）
左からトゲドロクダムシ、ウエノドロクダムシ、サラドロクダムシ属の一種（いずれもオス）

まとめ

今回の調査では町内で５種類のドロクダムシを発見できました。

特に厚岸湖内では３種類のドロクダムシが見つかりましたが、近縁な種類が藻場や砂泥底、塩分濃度の違いといった環境によって住み分けている可能性が示され、貴重な調査結果となりました。

広島大学の向田ゆき子氏らによる『厚岸湖・別寒辺牛湿原におけるドロクダムシ相と生態的特性の解明』より。

報告書などの本文は、水鳥観察館のホームページでみることができます。

水鳥観察館のホームページはこちら